

# 遠野市の共生社会ホストタウン 活動計画

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、ブラジルの視覚障害者5人制サッカーチームとの交流を始め、様々な交流を通じ、「共生社会」について考え、心と街のバリアフリー化を推進し、共生社会を実現する機会とする。

## ～ 子どもから広める共生社会 ～ 違いを知る 違いを尊重する 違いと絆がる

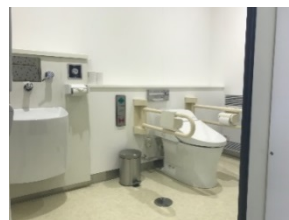
### ユニバーサルデザイン（UD）の街づくり

#### ■ 市民と創るユニバーサルツーリズムの推進

- 児童・生徒と障害当事者の参加による主要な観光施設、飲食店等のバリアフリー実態調査、バリアフリーマップの作成
- 観光施設、飲食店等に補助金制度新設等のバリアフリー化を推進  
(段差解消、誘導ブロック・多目的トイレの設置等)

#### ■ 視覚障害者5人制サッカー受入れを契機にした施設のバリアフリー化

- ブラジル視覚障害者スポーツ連盟のアドバイスを受け、市民サッカー場及び周辺導線と公共宿泊施設等の総合的バリアフリー化



### 心のバリアフリー

#### ■ 多様性を尊重する意識や態度の醸成

- 子どもから広める共生社会に向け、児童・生徒へ障害理解教育の実施
  - ・ 小中学校での人権教育の推進
  - ・ パラスポーツ体験（ボッチャ・ブラインドサッカー等）
  - ・ パラリンピアンによる体験型授業
  - ・ 絵画コンクール等の意識啓発
- 障害の理解促進
  - ・ パラリンピアン等との交流、パラスポーツの紹介、体験等
  - ・ 障害者スポーツ大会等の開催支援
  - ・ 障害者と健常者のスポーツ交流の実施
  - ・ 事業者向けの障害理解研修の実施



# 川崎市の共生社会ホストタウン 活動計画

## かわさきパラムーブメントの推進と英国チームの事前キャンプ受入

持続可能なまちづくりに向けて、様々な価値を持つ東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、**特にパラリンピックに重点を置き、誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指す運動を「かわさきパラムーブメント」と命名。**

検討段階から障害者団体等の意見を聞き、方向性を示した「かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョン」を策定。

ビジョンでは、「多様性と社会的包摂」及び「川崎のブランド力」に大別した9つのレガシーが形成された状態を明らかにし、その実現に向け、障害のある方をはじめとする社会的マイノリティの方々も一緒になり、市民一人ひとりが主体となり川崎から社会変革を促進。

また、英国代表パラリンピアンとの交流等により、パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図るとともに、共生社会の実現に繋げる。

めざせ！やさしさ日本代表

みんなの違いを活かせるチーム。  
障がい、年齢、人種やLGBT  
いろんな個性をチャンスにしよう。  
川崎らしく、力強く。  
未来を築いていく力は  
私たちの中にある。



かわさきパラムーブメント

本市の掲げるステートメント入りのロゴ

## ユニバーサルデザインの街づくり

### ● UDタクシーの普及と利用環境整備

- UDタクシーの導入補助（平成29年度末で58台）
- 専用乗り場の整備  
→引続き、車両台数の増加と乗り場整備を推進
- UDタクシーを活用した工場夜景ツアーの実施



UDタクシー

### ● 駅・道路などにおけるバリアフリー化の推進

- 19地区におけるバリアフリー基本構想等に基づく視覚障害者誘導用ブロックの設置等
- 市内バリアフリーマップ（主要施設のバリアフリー情報含む）の刷新

#### ◆ 川崎駅周辺の取組

- 行政サービスと観光案内の機能を持つ「かわさききたテラス」におけるデジタルガイドマップによるバリアフリー情報の発信
- 駅周辺のエレベーターに優先使用表示の推進



飲食店調査の様子

### ● アクセシブルシティかわさき

- 市内飲食店のバリアフリー調査と情報発信の試行
- 店舗におけるバリアフリー対応表示の推進

## 心のバリアフリー

### ● かわさきかつてにおもてなし大作戦(市民参加、市民活動の創発)

- パラムーブメントをより大きなうねりとしていくために、「ゲストからキャストへ」をキーワードに、障害の有無に関わらず多様な主体が「かわさきパラアンバサダー」として楽しく地域活動を行う、市民参加型のプロジェクトを推進

### ● 英国との交流事業

- ドレイク・ミュージック(英国音楽団体)と連携し、テクノロジーを活用することで、障害のあるなしに関わらず、音楽活動に関わる機会を生み出し、障害のある方が音楽に携われる取組の推進
- 高齢者のQOL向上を目指し、マンチェスター・カメラータ（英国音楽団体）のメンバーと連携した取組等の推進

### ● 短時間雇用プロジェクトと就労体験

- 市内事業者が仕事を切り出すことによる障害者の短時間就労の促進  
(平成30年2月で延べ28名が就労)
- 障害者やひきこもりの方々に対し、様々な分野での就労を体験することで、労働・就労意欲を喚起し、正規就労を促進  
(平成29年度は、74の体験企画を実施し、739名が参加)

### ● その他

- 市職員のユニバーサルマナー検定取得や事業者向けセミナーの開催、平成32年度までに全小中学校で障害者スポーツ体験講座の実施など

# 神戸市の共生社会ホストタウン 活動計画



オーストラリアパラリンピック委員会との協定書締結式

オーストラリアパラリンピックチーム（12競技、選手・スタッフ100人以上）及びネパールパラ水泳チームの神戸における合宿受け入れを契機に、障がい者理解を促進し、パラスポーツの機運を醸成することで、2020年に向けて「誰もが活躍するまち」神戸を推進し、共生社会の実現を目指します



ネパールパラ水泳チームのトレーニング合宿

## 神戸市バリアフリー基本構想（～2020年度）

理念 ～ひとにやさしいまちづくり、ひとがやさしいまちづくり～

取り組み 9つの重点整備地区において整備を実施・心のバリアフリーを推進

### ユニバーサルデザインの街づくり

- 基本構想の4つの方針に基づいたまちづくり
  - ・ユニバーサルデザインや神戸の特性に配慮した施設等の改善・整備
  - ・多様でわかりやすい適切な情報の提供
  - ・施設の職員および市民による心のバリアフリーの推進
  - ・持続的に取り組むバリアフリー
- 様々な方へ配慮された「こうべ・だれでもトイレ」の推進
  - ・2018年4月時点で市内156箇所に整備済
- 神戸市営地下鉄に可動式ホームドアを設置
  - ・2018年3月、地下鉄三宮駅に設置
  - ・2023年までに西神・山手線全駅に設置する方針で検討
- バリアフリーマップの整備
  - ・大規模国際スポーツイベントを見据えて、企業と連携してバリアフリーマップを作成



こうべ・だれでもトイレ シンボルマーク



### 心のバリアフリー

- 心のバリアフリー研修の充実
  - ・視覚障がい者の落語家を招いた職員研修
  - ・各区役所における市民接遇研修への導入（障がい者等が参画して作成したEラーニング教材の活用を検討）
- 学校におけるパラリンピアン交流ほか
  - ・スポーツ庁「Specialプロジェクト2020」
  - ・小中学校でのパラリンピアンによる体験授業
  - ・小学校での市バス福祉体験授業（車いす体験 等）
- 国際義肢装具協会世界大会2019の神戸開催
  - ・医師・義肢装具士・セラピスト・介護職など70か国・5,000人が参加
  - ・プレイベントとしてパラスポーツ体験事業などを実施
  - ・大会期間中にパラリンピック応援イベント（実演、指導、体験、器具展示）



## 総合福祉ゾーン「しあわせの村」での取り組み



しあわせの村 シンボルマーク

- 神戸市のUD化の先駆的役割を目指す
  - ・障がい者、学識経験者等の意見や、現地踏査による課題の整理と対応 [ハード再整備] 施設の更なるUD化、移動の円滑化、サイン再整備 等 [ソフト対応] 研修プログラム作成・実施、障がい者の参画拡充 等
  - ・障がい者向けルート案内アプリを導入
  - ・市民参加の取り組みの実施
    - ・こうべUD大学、夏休み親子UD体験教室、こうべUDフェア 等

※しあわせの村・・・高齢者・障がい者の自立や社会参加を支援する福祉施設と、緑豊かな自然の中で、すべての市民がリフレッシュできる都市公園を一体的に整備した複合施設

- パラリンピック支援活動の推進拠点
  - ・東京2020事前合宿を含めた国内外パラリンピアンによる合宿
  - ・パラリンピアン交流事業の展開
    - ・市民ボランティアによるパラリンピアンへの練習サポート
    - ・パラスポーツ体験イベントの開催 等
- 日本福祉のまちづくり学会全国大会の開催(2018年8月)



# 鳥取市・鳥取県の共生社会ホストタウン 活動計画

## 鳥取市と鳥取県が連携して共生社会の実現を目指します

### スポーツのユニバーサルデザイン(UD)化 ⇒ 県内障がい者スポーツ実施率日本一(50%)へ

- ◆障がいの種類、程度に関わらず、障がい者スポーツに親しむことができる機能・体制の一体的整備
- ◆ジャマイカパラリンピックチームの東京大会事前キャンプ受入を契機に、UD化、バリアフリー化を推進

### ユニバーサルデザインの街づくり

#### ■ 障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツに親しめる環境の整備（総合運動公園、市内スポーツ施設のUD化推進）

- ・県立布勢総合運動公園、市内の県立・市立体育館等の改修等によるバリアフリー化推進によるスポーツ環境の整備促進

#### ■ 街なか巡回による点検を経て、スポーツ大会開催・合宿誘致に必要な街なかUD化

- ・街なか巡回での障がい者団体の声ふまえ、道路等の整備・改修を実施
- ・ホテル、旅館等のバリアフリー化推進（客室改修、接遇向上、外国語対応）のために民間事業者向けの研修やアドバイス事業を展開
- ・UD対応（点字メニュー対応等）に取り組む民間事業者への補助金を制度化



街なか巡回による点検の様子

#### ■ UDタクシーの導入等による地域交通の利便性向上、これに伴う交通結節点の環境整備

- ・日本財団との共同プロジェクトでUDタクシー200台導入済（県内総台数の約半分）
- ・路線バス会社において、低床バス導入、バス車内での公共施設音声案内の導入、社員向けバリアフリー研修を実施
- ・鳥取駅、鳥取砂丘コナン空港等での案内板、待機場整備、段差解消等



### 心のバリアフリー

#### ■ 全国初の手話言語条例を契機とした活動

- ・県内全児童生徒へ手話ハンドブックを配布、手話普及支援員の学校への派遣
- ・全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催（平成26年度～）

#### ■ 障がい者をスポーツへ導くための人材育成

- ・総合運動公園を拠点に研修を行い、障がい特性を理解し、誰もがスポーツに親しむことができる体制等を整備し、継続支援ができる人材を育成する。

#### ■ 障がい者スポーツ大会を通じた交流の推進

- ・鳥取市小学校陸上競技大会、鳥取市民体育祭へパラリンピアン（日本・ジャマイカ）を招致し、障がい者スポーツ競技の周知や交流を実施



2017年鳥取市小学校陸上競技大会

#### ■ UDタクシードライバー研修の実施

- ・UDタクシードライバーの接遇力向上研修や接遇指導者の育成研修（平成28年度～）

あいサポート運動（障がいを知り、障がい者にちょっとした手助けを行う県民運動）

2009年11月鳥取発！全国へ拡大中



# 田川市の共生社会ホストタウン 活動計画

ドイツの車いすフェンシングチームを迎える東京2020パラリンピック大会を契機として、産官学民一体となったハード・ソフト両面のバリアフリーを実践することにより、障がい者スポーツ推進都市『福祉のまち たがわ』を目指す。

## ハード・ソフト両面のバリアフリーの実践

### ハード面（ユニバーサルデザインの街づくり）

#### ● トレーラーハウス合宿所の整備

- ・ 東京大会以降は、障がい者スポーツ大会や練習、スポーツ少年団の合宿等で利活用予定
- ・ 財源は、企業等からの企業版ふるさと納税等による寄付を活用予定
- ・ 緊急時の避難場所、他地域での災害支援等にも活用可能
- ・ 配置後のレイアウト変更可能



#### ● 田川市総合体育館のバリアフリー化

- ・ 段差解消、トイレ・シャワー室・自動ドア改修等

### ソフト面（心のバリアフリー）

#### ● 「心のバリアフリー研修」の定期開催

- ・ パラリンピアンへの講演や車いす体験等を実施
- ・ 経済界協議会や、社会福祉協議会、商工会議所地域住民と連携して、産官学民一体となった取組みに拡大

#### ● 全小中学校にてブラインドサッカー研修会の開催

#### ● 医療・福祉の専門大学「福岡県立大学」との連携

- ・ 学生・留学生等による通訳や福祉的サポート

#### ● バリアフリーマップの作製

- ・ 障がい者とともに駅周辺の街歩き・バリアフリー点検を行い、障がい者に有益なマップを作製



障がい者スポーツ推進都市「福祉のまち たがわ」の実現



# 飯塚市の共生社会ホストタウン 活動計画

## アジア最高峰の車いすテニスの大会「飯塚国際車いすテニス大会\*」

1985年から続く本大会を、2000名超のボランティアを中心に市全体で盛り上げてきた「イイツカ方式\* 2」の経験と精神を基盤として、共生社会の実現を目指す。



### \*飯塚国際車いすテニス大会(1985～)

世界4大会に次ぐグレードの大会”JAPAN OPEN”として開催され、世界中からトップクラスの選手が参加。

男子シングルス及び女子シングルス優勝者にそれぞれ**天皇杯・皇后杯**が贈られる。

### \*2 イイツカ方式

大会期間中の輸送やボールパーソン、通訳等をすべて民間企業、自衛隊、学生、市民等のボランティアが運営しており、世界から高く評価されている。

目指すべき  
共生社会の姿

○市全体が、自然と障がいがある方への手伝いができるまちへ  
○障がいがある方も安心して生活できるまちへ

### ユニバーサルデザインの街づくり

- ◆障がいがある方もない方も楽しめるスポーツ施設の整備
  - ・障がい者目線を取り入れたテニスコートの観客スタンドを設置
  - ・高齢者や障がい者スポーツにも対応できる新体育館の建設
- ◆ユニバーサルツーリズムの推進
  - ・車いすテニス大会の会場でもあるスポーツ施設が併設する公共宿泊施設のバリアフリー化
  - ・民間宿泊施設にバリアフリー化を推奨
- ◆誰もが住みやすさを実感できるまちへ
  - ・市主要駅前に多目的トイレや音声案内板を設置
  - ・中心市街地の歩道の段差解消や点字ブロックの整備
  - ・市内バリアフリー情報の集約および発信

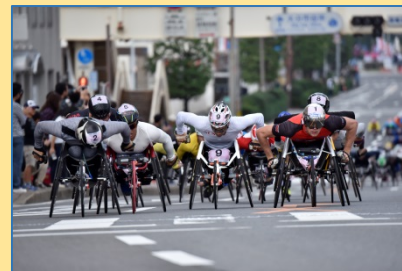
### 心のバリアフリー

- ◆イイツカ方式の担い手の継承
  - ・車いすテニス大会を継続開催し、さらに発展させるため、次世代のボランティア担い手を育成
- ◆パラスポーツの普及促進・パラリンピアンとの交流
  - ・パラスポーツ(車いすテニス、ゴールボール等)体験の実施
  - ・日本人パラリンピアンと市民との交流
  - ・南アフリカ共和国のパラスポーツ(車いすテニス競技・水泳競技)の合宿受入及び市民との交流
- ◆市民啓発活動
  - ・自治会等や民間企業に対し、障がい者への合理的配慮などをテーマとした研修やイベントの実施
  - ・手話奉仕員養成講座の実施



# 大分市の共生社会ホストタウン 活動計画

40年近くの歴史がある世界最高レベルの大会「大分国際車いすマラソン大会」の開催都市である実績を活かし、車いすマラソンの強豪国であるスイス連邦を交流相手国とし、東京パラリンピックを契機として、これまで以上に誰もが暮らしやすく訪れやすい都市を目指す。



## ユニバーサルデザインの街づくり

### ハード整備の推進

- 障害当事者の参画のもとまちなか点検を実施（点字ブロック整備等）
- ユニバーサルデザインの推進を目的とした店舗等の改修工事等に要する経費について民間事業者に対する補助制度を新設

### 情報提供の充実

- 本市ホームページに掲載中のバリアフリーマップの表記内容の拡充等の充実
- 2019年開催のラグビーワールドカップに向けて市内の観光マップの外国語版（多目的トイレ等表示を挿入）を作成

## 大分国際車いすマラソン大会とは・・・

1981年の国際障害者年を記念して、世界で初めての「車いすだけのマラソンの国際大会」としてスタートし、世界最大、最高レベルの大会として、国内外から高い評価を受けています。  
大会の開催に併せて、国内外から毎年多くの選手が本市を訪れています。



## 心のバリアフリー

### 車いすマラソンで培った接遇の横展開

大会の運営には、毎年多くの市民ボランティアが参画しており、ホテルやレストラン等も障がい者を自然に受け入れる対応ができています。本市では長年にわたり、市民全体で障がい者を迎える空気が醸成されている。

- 大会を通じて参加選手とふれあう機会を活かし、障がい者に対する接遇等の研修を開催
- 大会で培った心のバリアフリーを、以下の事業で更に進展
  - ・「輪い笑いフェスタ！大分市福祉のつどい」（「障害者週間」の記念事業）を開催し、障がい者への市民の理解促進
  - ・「スポーツ・オブ・ハート2018 in 大分」で障がい者も参画したファッションショー等の開催

### パラを契機とした交流

- パラリンピアン等の学校訪問を開催
  - 講演、パラスポーツ体験、競技用車いすの体験イベント等を開催

### 障がい者等衣服相談アドバイザー事業

- 専門家による障がい者用の衣服の製作指導を行うセミナーを開催